

# 公益財団法人おかやま環境ネットワーク

～2017年度事業・決算報告 2018年度事業計画・予算～



●旭川かいぼり調査2017

## 目次 contents

2017年度事業報告 .....	P. 1～11
2017年度財務諸表等・監査報告書 .....	P. 12～16
2018年度の事業計画・収支予算書 .....	P. 17～18
定款 .....	P. 19～22

平素より格別のお引き立てを賜り、誠にありがとうございます。

本誌を通じておかやま環境ネットワークについて一層のご理解を賜り、身近に感じていただければ幸いです。

今後も変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

※活動は皆様のご支援に支えられています。ご入会・ご寄附等のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



公益財団法人 **おかやま環境ネットワーク**  
Okayama Environment Network Foundation

～かけがえのない地球、未来のこどもたちへ～

# 2017年度の事業報告

(2017年4月1日～2017年3月31日)

## はじめに

1. 他団体等との協働がすすみ、事務局体制に見合う事業モデルの構築ができました。
2. 企業との連携として今年度はじめて、(株)岡山村田製作所と「ビオトープ見学・ホテル鑑賞会」「ホテルフォーラム」を共催しました。
3. 市民のための環境講座の1会場あたりの参加者増をめざし、参加型企画を増やす改善等により、開催数、参加数共に過去最多となりました。また、はじめて御津大野川地区の協力により3回シリーズで開催しました。

## 1. ネットワーク・広報・研究・助成事業

### ①. 助成事業

#### 1) 助成活動報告会

5月13日(土)にオルガにて、岡山県下で環境活動を行う団体や個人が集い、日ごろの活動を紹介してさらなる活性化、相互のネットワーク形成をめざし開催し、40名が参加されました。

2016年度助成を受けた全9団体(あかいわ美土里の和『里山再生プロジェクト』、千年の森づくりグループ『美咲の森～豊かで輝く郷づくり』、「ホテルの里」を記録する有志の会『「ホテルの里」のものがたり作成』、岡山理科大学附属高等学校科学部『旭川流域河川の底生動物を利用した水環境調査』、里海づくり研究会議『沿岸海域における物質循環促進技術の開発』、共存の森ネットワーク『誇りを持って日生を担う若者を育てる』、おかやまコープ岡山東エリア『親子で学ぶ瀬戸内海の生き物と環境』、あかいわエコメッセ『第18回あかいわエコメッセ(環境企画展)』、おかやまエコマインドネットワーク『地域を活かす農業と食の安全』)から活動報告がありました。

#### 2) 助成部会

助成活動報告会の概要、助成募集要項について協議し、2018年度助成応募の審査を行いました。

#### 3) 助成実績

2017年度は8団体に94万円助成しました。1999年からの19年累計で、207団体に2,179万円を助成しました。

### ●2017年度団体助成事業・企画一覧

	団体名	企画名
1	つやま演劇教育研究会	演劇を介したクールチョイスの周知・促進
2	あかいわ美土里の和	里山再生プロジェクト
3	おかやまコープ美作エリア	バイオマス産業社市真庭に学ぶ環境保全活動
4	あかいわエコメッセ	第19回あかいわエコメッセ(環境企画展)
5	千年の森づくりグループ	豊かな美咲町自然・環境、人づくり!
6	岡山理大附属高校科学部	旭川流域底生動物を利用した水環境調査
7	共存の森ネットワーク	アマモ場再生で形成される日生食文化の伝承
8	里海づくり研究会議	沿岸海域における物質循環促進技術の開発



●助成活動報告会

### ●団体助成実績一覧 ※金額:万円

年度	団体数	金額
99	5	65
00	7	100
01	13	110
02	13	137
03	16	150
04	11	102
05	15	147
06	15	129
07	12	120
08	15	150
09	11	94
10	10	93
11	12	100
12	6	90
13	8	102
14	10	126
15	11	175
16	9	95
17	8	94
合計	207	2,179

## ②. ホタル団体交流会・第15回ホタルフォーラム

### 1) ホタル団体交流会

年4回開催(4月15日(土):9名参加、7月8日(土):15名参加、9月30日(土):8名参加、2月3日(土):11名参加)し、ホタルの保全活動をとおした環境保全活動の交流をすすめました。また、ホタルフォーラムの運営、来年度以降のホタル団体交流会やホタルフォーラムのあり方について検討しました。

### 2) ビオトープ見学・ホタル鑑賞会

5月27日(土)に(株)岡山村田製作所にて『ビオトープ見学・ホタル鑑賞会』を開催し、91名が参加されました。

### 3) ホタルフォーラム

10月28日(土)に第15回ホタルフォーラムを、(株)岡山村田製作所(瀬戸内市)にて、(株)岡山村田製作所、生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアとの共催で開催し、58名(17団体等)が参加されました。

冒頭、(株)岡山村田製作所所長・唐木信太郎氏より挨拶があり、その後、(株)岡山村田製作所管理部環境課チームリーダー・村田健氏「岡山村田製作所取組報告」に引き続き、岡山大学環境理工学部・荒川智之氏、遠藤修平氏「岡山大学ビオトープ取組報告」、倉敷市公園緑地課非常勤嘱託員・岡本勇氏「由加のホタル(ホタルの生態等について)～幼虫上陸から飛翔調査～」の報告と、質疑応答がありました。

会場内では、故・梶田博司氏(元川崎医療福祉大学教授・元おかやま環境ネットワーク理事)所有の写真・各種資料展示や、倉敷市児島・岡本勇氏、生活協同組合おかやまコープ岡山東エリアの資料展示がありました。

フォーラム終了後、村田製作所ビオトープを見学しました。



●ビオトープ見学・ホタル鑑賞会



●第15回おかやまホタルフォーラム



●里海交流シンポジウム

## ③. 自然環境の研究・交流

### 1) 里海づくり推進部会

有識者、事業者、団体、企業、行政等、多様なメンバー参加のもと、里海・里山シンポジウムや体験プログラムの企画検討、参加メンバーの取り組み交流等をすすめました。

### 2) 里海交流シンポジウム

1月27日(土)に「地域をつなぐ里海交流シンポジウム～浜をつなぐ子ども達の里海づくり～」をテーマに、オルガホールにて、里海づくりに取り組む4つの小中高等学校が参集し、それぞれの活動を紹介し合うとともに、子ども達の里海づくりを通じて学校と地域をつなぐ海洋教育の有るべき姿を考えることを目的に、里海づくり推進部会の企画・運営のもと開催し、127名が参加されました。



●里海交流シンポジウム

笹川平和財団海洋政策研究所海洋研究調査部長・古川恵太氏の基調講演「世界をめぐる海～海について知っておいてほしいこと～」に続き、岡山市立小串小学校「見つめ直そうわたしたちの小串～ふるさと小串の海を守るために自分たちにできること～」、備前市立日生中学校「海と人に学び、共に生きる日生中学校～先輩から後輩へ、受け継いだ5年間～」、岡山学芸館高等学校「海洋教育から学んだこと～海洋学習～、～藤生喜江子さんと日生～、～海草と漁場～」、岡山県立笠岡工業高等学校「地域と連携したアマモ場再生活動への取り組み」の活動報告がありました。

その後、九州大学名誉教授・柳哲雄氏をコーディネーターに、『浜をつなぐ子ども達の里海づくり～学校と地域をつなぐ海洋教育を考える～』をテーマに、パネルディスカッションをすすめました。

パネリストは、岡山市立小串小学校教諭・矢野智美氏、備前市立日生中学校教諭・藤田孝志氏、岡山学芸館高校教諭・柳雅之氏、岡山県立笠岡工業高等学校教諭・大西豊氏、日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏、基調講演演者・古川恵太氏の6名で、参加者との質疑応答を通じ交流をすすめました。

④. ニュース、ホームページ、メールニュースの発行

- 1) 「おかやま環境ネットワークニュース」を年4回発行し、個人、団体、企業の交流につなげました。
- 2) 月2回のメールニュースの発行と、ホームページの更新を通じ、情報提供をすすめました。
- 3) メールニュースの登録者数は1,343名となり、各事業の参加申込につながっています。
- 4) 活動紹介パンフレットや事業・決算報告書をいろいろな機会に配布し、活動紹介や会員獲得を図り、18会員（個人・団体・企業）の入会がありました。

⑤. 環境家計簿の普及

- 1) 環境家計簿委員会：環境家計簿モニター実績をまとめ、「環境家計簿レポート」や「環境家計簿カレンダー」の原稿を作成しました。
- 2) 2016年のモニター実績報告をまとめた「環境家計簿レポート」を7月に岡山市と協働で発行しました。報告は244世帯からあり、その内2015年と2016年の2年間分の全データが揃った234世帯実績を集計し、1世帯当たりのCO<sub>2</sub>排出量は前年比3.8%の削減につながりました。
- 3) 2017年のモニター登録数は、前年から微増の265世帯（前年257世帯）となりました。
- 4) 暮らしの見直し啓発ツールとして、11月に「環境家計簿カレンダー」を岡山市と協働で発行し、会員とモニターに送付しました。



●ネットワークニュース No.89



●環境家計簿カレンダー2018



●環境家計簿レポート

## 2. 啓発事業

### ①. 市民のための環境講座

環境問題を正しく理解し、意識啓発や行動を促すことを目的に開催しました。今年度は、1会場あたりの参加者増をめざし参加型企画を増やした結果、過去最多の456名が参加されました。

神島寺間・見崎里浜づくりや生活協同組合おかやまユープ岡山東・岡山西・倉敷・備北・井笠エリア、大野川いい川づくり、ママカリ普及委員会、岡山市エコ技術研究会との共催が実現できました。また、神島での企画には、岡山県立笠岡工業高等学校も参加されました。

- 1) 5月3日(水)大野川いい川づくり代表・河太勝子氏「筍掘り体験」47名参加
- 2) 6月19日(月)神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室①現地観察会と取組学習」36名参加
- 3) 7月7日(金)岡山市エコ技術研究会理事・稲見圭紅氏「捨ててはいけない！食品ロス問題を考える」24名参加
- 4) 7月27日(木)明和製紙株式会社・湯場俊一氏「紙はゴミじゃない」41名参加
- 5) 8月2日(水)神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室②種子採集」41名参加
- 6) 8月20日(日)大野川いい川づくり代表・河太勝子氏「川あそび」51名参加
- 7) 9月10日(日)大野川いい川づくり代表・河太勝子氏「水質調査&家庭排水浄化炭の交換作業」9名参加
- 8) 10月11日(水)神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室③育苗キット製作体験」22名参加(小林嘉文笠岡市長も参加)
- 9) 11月1日(水)ママカリ普及委員会代表・林宗男氏「お魚教室」32名参加
- 10) 11月20日(月)(株)井ゲタ竹内・粟木雄三氏「教えてもずく～もずくを通して里海の環境を考える～」25名参加
- 11) 12月2日(土)中国四国地方環境事務所環境対策課長・原田幸也氏「地域の未来を考える～環境省の取り組み～」21名参加
- 12) 12月10日(日)NPO法人里海づくり研究会議理事(おかやま環境ネットワーク理事)・田中丈裕氏「海のゆりかごアマモの話をきいてみよう」と、県内産ちりめん、海苔、お米等を使った「おにぎらず」試食31名参加
- 13) 1月23日(火)(株)西日本衛材「コアノンロールとりサイクルを学ぼう」※講師都合により中止
- 14) 1月31日(水)神島寺間・見崎里浜づくり代表・森中憲治氏「アマモ再生教室④苗定植体験」29名参加(小林嘉文笠岡市長も参加)



●市民のための環境講座  
アマモ再生教室①現地観察会



●市民のための環境講座  
食品ロス問題を考える



●市民のための環境講座  
紙はゴミじゃない



●市民のための環境講座  
お魚教室

- 15) 2月10日(土) 吉備国際大学社会科学部教授 (おかやま環境ネットワーク理事)・井勝久喜氏「持続可能な地域づくり～環境・社会・経済の調和を目指して～」11名参加
- 16) 2月13日(火)岡山市エコ技術研究会理事・稲見圭紅氏「捨ててはいけない！食品ロス問題を考える」36名参加

## ②. 体験プログラム

次代を担う子どもの参加する取り組みを大切に考え、自然にふれ親しみ、自然との共生、自然の大切さ、いのちのつながりなどを伝え、自然環境や普段の暮らしを考えるきっかけをつくることを目的に開催しました。

### ・第1回：6月17日(土)『大野川ホタル調査会』

ホタルの観察をとおり、自然環境の大切さを実感することを目的に、自然豊かな御津の大野川流域の大野公会堂並びにその周辺河川敷にて開催し、73名が参加されました。

当日は、岡山野生生物調査会・岩城孝志氏を講師に、現地の自然環境やホタルの生態等についての解説の後、3班に分かれ、ホタルの観察と出現数をカウントし、最後に講師から調査結果のまとめの報告がありました。また、地元の皆様に「いのししカレー」をふるまっていただきました。

### ・第2回：8月8日(火)『カブトガニ博物館と㈱エフピコ見学』

カブトガニ博物館見学の取組報告と博物館見学をとおり、瀬戸内の自然を守るカブトガニの保全の取り組みや、瀬戸内海を保全する上で干潟、生物の役割、瀬戸内海のごみなどについて学ぶことと、㈱エフピコ福山工場の発泡トレーと透明容器リサイクルの取組報告と工場ライン見学をとおり、リサイクルや廃棄物処理の現場から資源の有効活用について学ぶことを目的に、生活協同組合おかやまコープ倉敷エリアと共催で開催し、35名が参加されました。

### ・第3回：8月24日(木)『森林公園を歩こう』

山上新最終処分場にて、廃棄物処理の現状を学ぶことと、岡山県立森林公園にて、森林インストラクター長谷部勝己氏を講師に、豊かな自然を体感し木々の名前や謂れの学習をとおり、森林を身近に感じその大切さを学ぶことを目的に、生活協同組合おかやまコープ岡山西エリアと共催で開催し、39名が参加されました。



●市民のための環境講座  
井勝久喜氏



●『大野川ホタル調査会』



●『カブトガニ博物館』見学



●『森林公園を歩こう』

● 第4回：10月8日(日)『大野川いきもの調査会』

6月17日の継続企画として、御津大野公会堂並びにその周辺河川敷にて、御津の「緑」と「清流」を守る会、大野川のいい川づくりと共催で開催し、36名が参加されました。

当日は、岡山野生生物調査会・岩城孝志氏、岡山淡水魚研究会・柏雄介氏を講師に、現地の自然環境やいきものの生態等についての解説の後、4班に分かれ、いきもの観察をしました。最後に講師から調査結果のまとめの報告がありました。

また、地元の皆様に「いのししカレー」をふるまっていただきました。



● 『大野川いきもの調査会』

● 第5回：10月14日(土)『アマモ種選別・種まき体験と日生でとれるエビの食べ比べ体験』

日生町漁業協同組合の協力のもと開催し、112名が参加されました。

当日は、前半、アマモ種選別作業を行い、後半、12グループに分かれ、船の上から種をまきました。その後、つぼ網漁で獲れた3種のエビの食べ比べと、「お魚の美味しい話」を聞きました。



● 『アマモ種選別・種まき』

● 第6回：11月5日(日)『旭川かいぼり調査2017』

岡山市北区・竹枝小学校前の旭川河川敷にて、いきもの調査を、竹枝学区ふるさと活性化協議会他、多くの団体等と共催で開催し、480名が参加されました。

当日は、旭川本流河川敷と中洲の間を一時的にせき止め、約300メートルの調査区域を4か所に区切り、いきもの調査と、川底の石を返し、川を耕しゴミ拾いを行いました。

午後からは採集したいきものの解説を聴き、豊かな自然環境を確認しました。

また、「旭川かいぼり調査パンフレット(第2版)」を参加者に配布しました。



● 『アマモ種選別・種まき』



● 『旭川かいぼり調査』



● 『旭川かいぼり調査』

### 3. 他団体や行政などとの関係

#### ①. 水環境フォーラム in 岡山

第15回は、7月8日(土)、(社)日本水環境学会中国四国支部岡山地域分科会、岡山理科大学環境教育地域支援研究会と共催で、「廃水からの窒素処理に関する省エネ技術」をテーマに開催し、19名が参加されました。

当日は、高知大学教育研究部自然科学系農学部門教授・藤原拓氏「オキシデーションディッチ法における二点 DO 制御システム～着想と開発経緯～」、前澤工業(株)事業統括本部環境ソリューション事業部・中町和雄氏「オキシデーションディッチ法における二点 DO 制御システム～実用化と普及展開～」、岡山市下水道河川局下水道施設管理課副主査・大月孝将氏「アンモニアセンサーを用いた OD 法に係る送風量削減の取組み」、京都大学工学研究科准教授・西村文武氏「ANNAMOX プロセスの研究開発動向」の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

第16回は、12月2日(土)「藻場再生の取組み」をテーマに開催し、19名が参加されました。

当日は、岡山県農林水産総合センター水産研究所資源増殖室研究員・後藤真樹氏「岡山県におけるアマモ場造成の取組について」、日生町漁業協同組合専務理事・天倉辰己氏「アマモ再生活動 30 年の歩み～地域と世代をつなげて～」、岡山大学大学院環境生命学研究科教授・大久保賢治氏「アマモ場再生に係わる物理過程について」の講演後、総合討論にて意見交換をすすめました。

#### ②. 10月4日(水)日生西小学校「アマモ学習・ポット作成教室」

地域と世代をつなぐ里海づくりの一環として、備前市立日生西小学校にて、日生中学校の生徒と日生西小学校の児童に、市民団体(NPO法人里海づくり研究会議、おかやまユーブ岡山東エリア、おかやま環境ネットワーク)が加わり開催し、42名が参加されました。

当日は、NPO法人里海づくり研究会議理事・田中丈裕氏からアマモの役割の解説の後、事前に日生中学校1年生の生徒達が流れ藻を回収して採取したアマモ種子を使って、アマモポットを作成しました。

その後、アマモの成長過程を観察の後、2018年3月8日に潜水作業により定植されました。



●第15回「水環境フォーラム in 岡山」  
西村文武氏



●第16回「水環境フォーラム in 岡山」  
大久保賢治氏



●アマモ学習・ポット作成教室



●アマモ学習・ポット作成教室

行政などとの関係

- ・「岡山県協働による環境学習推進事業運営委員会」、「岡山ESD推進協議会運営委員会」へ委員参加し、「備前市里海・里山ブランド推進協議会 with ICM」、「全国ほたるサミット実行委員会」へオブザーバー参加し、その役割を發揮しました。
- ・「市民のための環境講座」を、大野川いり川づくり、神島寺間・見崎里浜づくり、岡山市エコ技術研究会、ママカリ普及委員会、生活協同組合おかやまコープ岡山東・岡山西・倉敷・備北・井笠エリアと共催で、また、下期からは岡山県生涯学習大学指定のもと開催しました。
- ・岡山市と協働で、「環境家計簿レポート」「環境家計簿カレンダー」を発行しました。

4. 法人管理・会計等

- ・公益財団法人定期報告と評議員改選、役員変更登記等  
評議員改選と理事選任、それに伴う登記を行い、行政庁への定期報告を行いました。

・ 会員の状況

	団体	個人	企業等	合計
2017年度末	47	112	42	201
2016年度末	47	125	39	211

2017年度入会の状況

	団体	個人	企業等	合計
入会	2	12	4	18

・ 財政

- ・事業実施にあたり、他の団体や行政等との連携や協働により事業参加者が増え、また事業費が見込みより減額できたことなどにより、経常収益は予算比103.8%と上回り、経常費用は予算比87.9%と下回りました。
- ・収支予算は収支均衡としていましたが、上記により約76万円の黒字となりました。尚、20周年記念事業準備資金として、45万円を特定費用準備資金に積み立てました。



# 公益財団法人おかやま環境ネットワーク役員・評議員

平成29(2017)年度

## 理事

	氏名	略歴等
1	青山 勳	岡山大学名誉教授
2	秋山 秀行	(株)大町代表取締役社長
3	井勝 久喜	吉備国際大学教授
4	齋藤 達昭	岡山理科大学理学部准教授
5	阪田 祐作	岡山市エコ技術研究会理事/岡山大学名誉教授
6	清水 善朗	弁護士
7	白井 浩子	日本科学者会議岡山支部会員
8	塩飽 敏史	公益財団法人水島地域環境再生財団理事・研究員
9	上甲 啓一	生活協同組合おかやまコープ執行役員
10	田中 丈裕	特定非営利活動法人里海づくり研究会議理事・事務局長
11	千葉 喬三	岡山大学名誉教授(元岡山大学長)
12	梅崎 一夫	生活協同組合おかやまコープ職員
13	野上 祐作	岡山理科大学名誉教授
14	花口 光	岡山の自然を守る会事務局長・会長
15	三村 健	サンコー印刷(株)相談役

以上、理事15名 (50音順)

代表理事:青山 勳、業務執行理事:上甲 啓一、梅崎 一夫

## 評議員

	氏名	略歴等
1	阿部 孝司	岡山大学生生活協同組合専務理事
2	伊藤 國彦	岡山県立大学名誉教授
3	河本 志津恵	岡山医療生活協同組合常任理事
4	北川 文夫	岡山理科大学教授
5	小橋 賢之	(株)建美装社代表取締役
6	田中 照周	生活協同組合おかやまコープ専務理事
7	日野 進一郎	グローバルネット吉備代表/日野環境デザイン研究所代表
8	檜山 伸吾	児島湖流域エコウェブ理事
9	平田 まき子	加計学園水質管理室
10	福留 正治	岡山環境カウンセラー協会顧問
11	藤田 賢治	(株)フジタ地質代表取締役
12	宮本 紀子	生活協同組合おかやまコープ有識者理事

以上、評議員12名 (50音順)

## 監事

	氏名	略歴等
1	岡本 秀雄	生活協同組合おかやまコープ常勤監事
2	横山 順二	岡山手延素麺株式会社代表取締役

以上、監事2名 (50音順)

## 顧問

	氏名	略歴等
1	河原 長美	岡山大学名誉教授

以上、顧問1名